



復興へ備前焼販売

岡山駅で作家有志52人

チャリティー販売会で備前焼を品定めする人たち

をJR岡山駅地下改札口前で開いた。

若手作家を中心とする52人が花瓶や湯飲み、皿など約540点を500〜3万円で販売。価格は通常より割安で、来場者は1点ずつ手に取り、気に入った品を見つけては代金を募金箱に入れていた。

コップを購入した和気町日笠上、麻植栄一さん(71)は「発生から

7年がたち震災が忘れられているように感じる。少しでも復興に協力したい」と話した。

収益は国際医療ボラントリーアAMD A(岡山市)に寄付し、被災地での交流イベント開催などコミュニティづくりの活動に役立ててもらおう。虐待を受けた子どもの自立を支援するNPO法人子どもシェルターモモ(同市)にも贈る。

チャリティー販売は2011年から毎年行っており、この日は約

83万円が集まった。売りに上げの全額を関係先に寄付しており、昨年までと合わせた総額は約745万円となった。(南原久人)

県内の備前焼作家有志でつくる「from」は10日、被災者支援などに「from」売り上げを東日本大震災役立てる作品の販売会